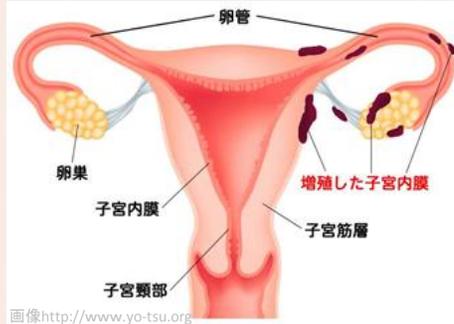


子宮内膜症

女性のライフサイクルの変化に伴い増え続けています！

どのような病気なの？

子宮の内側（内膜）に存在するはずの**子宮内膜に似た組織**が、**子宮以外の場所**に発生し**増殖**します。月経のたびに、子宮以外の場所（**卵巣や卵管、腸、膀胱(ぼうこう)と子宮の間**など）に生着した子宮内膜組織も出血を起こします。閉ざされた部位で出血するため、**炎症**が慢性化し、周囲の臓器や組織と**癒着(ゆちゃく)**を起こすと、**強い痛み**や**不妊**の原因となります。



卵巣チョコレートのう胞

卵巣内部に子宮内膜が発生し血液が溜まった状態。**加齢とともに卵巣がんの発症リスクが高くなる**ことがわかっています。

どのような症状があるの？

進行するにつれて**月経痛の程度が強くなります**。周囲の臓器や組織と癒着(ゆちゃく)を起こすと、**月経時以外にも下腹部痛や腰痛、性交痛、排便痛が生じるようになります**。

治療法は？

大きく分けて**薬物療法**と**手術療法**があり、病状の重症度や年齢、妊娠希望の有無などを総合的に判断し、最適な治療法を選択していくことになります。

子宮内膜症を疑うサイン ※1

- 鎮痛薬が効かないほど月経痛がひどい
- 徐々に月経痛がひどくなってきている
- 月経以外のときでも下腹部痛がある
- 性交時に腰が引けるほど痛い
- 排便のときに痛みがある
- 肛門の奥のほうが高い
- なかなか妊娠できない

1つでも該当したら産婦人科に相談しましょう

進行を防ぐために…ためらわず受診を

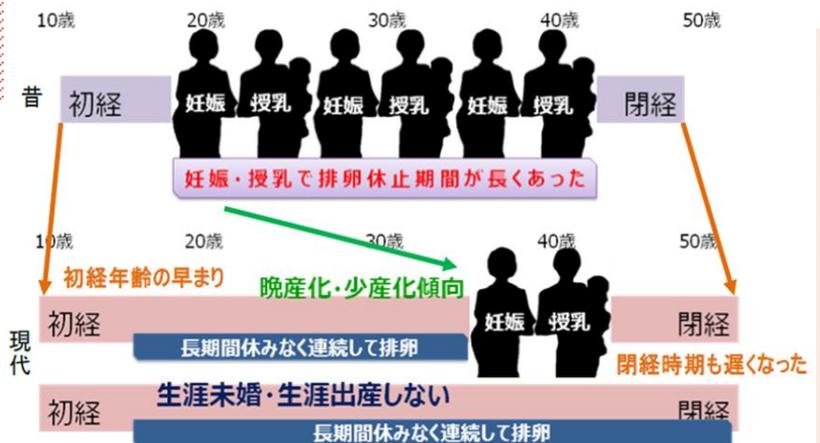
診断の遅れは子宮内膜症を進行させ、重症化させることになりかねません。しかし、多くの女性がきちんと治療を受けずに病状を進行させ、苦しんでいるのが現状です。子宮内膜症による痛みは、就学、就労、妊娠の妨げともなり、人生や生活の質(QOL)を著しく低下させてしまいます。

思い当たる症状がある場合は、ためらわず早めに産婦人科を受診してください。

月経がある限り発症のリスクは続く

現代の女性は**初経年齢が早まり**、**出産年齢は遅く**、**少産化の傾向**にあり、**閉経年齢も遅くなった**ことから、生涯の**排卵・月経回数**が格段に増えています。このようなライフサイクルの変化が子宮内膜症の発症リスクを高める要因となっているといわれています。

月経回数の変化 ※2



※1,2は日本子宮内膜症啓発会議 子宮内膜症Fact Note(2013)より引用